

編集後記

『研究紀要』第3号をおとどけいたします。今回の特集テーマは「ジェンダーと生涯学習」です。

使われはじめた頃、「生涯学習」という言葉にはみずみずしい響きがありました。そこには、学習者にとって、なぜそれを学ぶかについての意味づけ(レリバンス)をあたえないものになってしまった、既存の学校教育のもつ「抑圧性」に対する批判がこめられていました。しかし、それが一種のはやり言葉となり、競って消費されるうちに、すっかり「毒」の抜けた言葉に変わってしまったように思われるのです。

ジェンダーという視点を導入することによって、「生涯学習」という言葉に、いま一度、みずみずしく力強い響きと批判精神をとりもどしたい。ジェンダーという角度を入れると、「知」の風景がガラッと変わってきます。また逆に、ライフコースの全段落にわたる社会化の可能性という「生涯学習」の視点から、ジェンダー形成の側面を総点検し、再検討を加えてみたい。特集テーマにはこのような期待と願望がこめられています。その期待がどこまでかなえられたのか、判断は読者にゆだねたいと思います。

ただ、残念なことに、今回、投稿論文17本のうち、掲載することができたのはわずか3本でした。研究紀要として一定水準の質をたもつにはやむを得ないことと思います。

それにしても、寄せられた論文を査読し、評価するという仕事の重みと責任を痛感しています。減点主義を避け、主題の清新さや、論文のもつ潜在的な可能性を見落とすことなく評価するために、どんな点に注目すればよいのか、国立婦人教育会館の研究ジャーナルとして、どこに独自性を求めていくのか、時間の許すかぎり、議論しました。ときには、複数の査読者のあいだで判定結果のくいちがう「評価割れ」もあります。そのたびに公正な審査のあり方がくりかえし問われることになります。

紀要委員会委員長 天野 正子

国立婦人教育会館研究紀要 第3号

1999年12月 発行

編集・発行

国立婦人教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728
TEL 0493-62-6711 FAX 0493-62-6720

制作・印刷

有限会社 玄工房

〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-8 ヒライビル3F
TEL 03-3815-9276(代) FAX 03-3815-9275